

第1回可児市地域公共交通協議会 議事要点録

日 時：平成28年5月16日（月） 午後2時00分～午後3時30分

場 所：可児市役所5階第1委員会室

出席者：協議会委員17人、代理委員2人、事務局3人

1. 開会

（開会）

事務局が開会を宣した。また、地域公共交通協議会の役割について説明した。

（非公開情報の確認）

事務局が非公開情報はない旨を回答した。

2. 会長の選出

（会長の選出）

協議会設置要綱第5条に基づき会長の選出は互選であることを事務局が説明した後、委員へ意見を求めた。

○委員

事務局一任でお願いしたい。

○事務局

会長については、前期に引き続き、副市長ではどうか。

〔賛成の拍手があり、副市長が会長に就任し、会長席へ移動。〕

（会長あいさつ）

会長が委員各位へのお礼と、公共交通の重要性を鑑み活発な議論をお願いした。

3. 本市の公共交通について

事務局が資料2に基づき説明を行った。

【質疑なし】

4. 議事録署名者の指名

(議事録署名者の指名)

会長から議事録署名者として、2名の委員を指名した。

5. 報告第1号 平成27年度可児市コミュニティバス事業及び平成28年度可児市コミュニティバス事業予定について

事務局が資料3に基づき説明を行った。

○委員

資料2と資料3で1日のコミュニティバスの平均乗車人数が違うのはなぜか。

○事務局

資料2については他の公共交通機関と比較しやすいよう365日で全体の利用者数を割っており、資料3については実質的な運行日数で割っているため、平均乗車人数が違う。

○会長

事務局はそういった資料を載せる場合は、計算の根拠を明示すること。

○委員

免許証返納後は交通手段が無いため外出が困難となり、外出回数が減ると思う。免許証返納後の外出の増減を示すデータはあるか。

○事務局

アンケートの回答があった37名のデータがあり、減っているとの回答も見られた。いろんな移動手段がある中で、公共交通も一つの手段として選択いただけるように周知をしていく。

○委員

可児市で自動車を持っていない方については、外出をするのが困難である。また、公共交通を利用しようと思うと目的地までにとっても時間がかかる。そういった実態の緩和方法を考えていくのが協議会の課題だと思う。

6. 報告第2号 名鉄広見線（新可児駅～御嵩駅間）活性化について

事務局が資料4に基づき説明を行った。

【質疑なし】

7. 報告第3号 可児市コミュニティバス日曜等における運行方針及び運行計画策定に関する調査結果について

事務局が資料4に基づき説明を行った。

○委員

今後の方針は良いと思うが、市民アンケート調査の取り方に問題がある。自動車を持っている人を含めて調査するのは、否定的な意見を持つ人が多くなる可能性がある。今後アンケートを取る時は目的を考え、結果をある程度は想定して取って欲しい。そのため、「走らせるべきでない」と回答があった24.2%に捉われず、困っている人のためにどうするかを市として考えるべきである。

○事務局

今回の調査では回答者の8割以上が運転免許証を持っている人である。ただし、自由意見の中では現在は必要ないが、今後は必要であるという意見も多数いただいている。公共交通を担う使命として、日曜日・祝日運行を踏み出す、また現在の運行を精査することについては、今回のアンケート結果は意味があるものと考えている。先ほどの意見を考慮しながら制度設計を考えていきたい。

○委員

平成29年4月から実証実験を行うと説明があったが、そこまで話が進んでいるのか。

○事務局

事務局内部の運行方針ということで、話しをさせていただいた。これから日曜日・祝日運行の実証実験の時期や制度設計について運行事業者に相談したい。

○委員

子育て世代の方々の意見で日曜日に無料で遊びにいける場所があまりない。日曜日・祝日運行を検討するのであれば、そういったことを踏まえてルート等を考えて欲しい。また、デマンドバスは1時間に1本だけの運行であるため不便である。日曜日・祝日運行で集客が増えれば運行状況も良くなり便数が増加し、効率的に動ける可能性が出てくるのではないか。

○事務局

現在の運行は交通弱者への移動手段としての役割が大きい。日曜日・祝日運行は女性、子育て世代、高校生がターゲットとなる可能性があり、先ほどの意見を考慮しながら制度設計を考えていきたい。

○会長

子育て世代の方々の出掛ける場所等を踏まえて考えていくべきであるため、他のセクションと連携して検討していく。

○委員

先ほどの委員が指摘したところで、統計という見方では全数調査は一定の意味がある。そういった中で、24.2%の反対意見が大事であるのではなく、17.7%の賛成意見を尊重していくべきである。

また、ここ数年で将来のことを考えると公共交通を残すことが重要であると認識を持っている人が増えている。そういった人たちのニーズを踏まえて制度設計を考えて欲しい。

また日曜日・祝日の運行に関して運行方法等を提示せず、アンケートを集計しているため、人によって捉え方が違い、どういった運行方法で行うかがわからなかったために、「わからない」と回答した人も多数いると思う。そういった人たちの意見を取り入れるために、資料の最後に自由意見が記入してあるが、そこも含めて精査すべきである。

○事務局

教授には事前にお話をさせていただいた中で、バスが交通手段ではなくバスに乗ることを目的にするような制度設計を考えることを指導いただいたので、そういったことも考慮していきたい。

また、ある程度の制度設計が固まったところで、市民の方からご意見をいただけるような体制を考えていきたい。

○会長

全体的なことも含め、他に意見、質問はないか。

○委員

今年度どういったことを議論していくか。

○事務局

資料5で説明した日祝運行の制度設計、また、月曜日から土曜日までの運行でアンケートの中でも修正した方が良い点が記載されていたため、そういった点を議論していく。さらには、公共交通の利用促進やPRや周知を皆様の意見を受けながら行っていく。

○会長

事務局の説明に付け加え、「電話で予約バス」の名称変更も検討する。

○委員

全般的な話で、コミュニティバスの運用の検討が協議会の主たる内容となっているが、資料2にだれもが安心して移動できる公共交通ネットワークの構築と目標が記載されている。現在の可児市の公共交通は目標にほど遠い。自動車を持っている人は良いが、今後増えていくと思われる自動車を持っていない人に対して移動手段の確保を検討して欲しい。そういった事を議論することがこの協議会の根幹だと思っている。

○事務局

そういったことも今後議論してしていきたい。

○委員

高齢者の自動車の免許証の更新を行うのに、可児市内で講習を行うことが可能である。ただし、更新後の免許証は多治見市で交付となり、わざわざ多治見市まで行かなければならない。郵送等に対応できないか。

また、免許証を返納した高齢者は交通手段がなくなり生活に困られるような方もいる。現在では自動運転の自動車が開発されているが、1台1200万ほどするとのことでとても購入できない。安価で購入できるようになれば、お年寄りの足として活用できると思う。協議会ではこういった年寄りの足の確保をできるような議論ができれば良い。教授、何か良い方法があればご教授いただきたい。

○委員

自動車の自動運転については、技術的には完成しているが、制度的な問題がネックとなっており、進んでいないのが事実である。私自身も車を運転できない人の交通機関としての可能性に注目していて、制度的なものが成熟すれば何かの可能性になると思うが、これが良いという結論がまだ持てない。

○委員

活性化計画の中で可児市の職員は何人が利用可能で何人が利用しているのか。大元である可児市の職員が利用しないと市民の皆さんの理解を得られないのでは。

○事務局

沿線で通勤利用が可能な職員は40～50名で、利用しているのは2名である。

○委員

資料4を見ればわかるように、広見線の利用は減少している。これを増やすには高齢者をターゲットしてはどうか。高齢者の足をどのように確保するのかをまず考えて欲しい。高齢者の意見としては駅から病院やスーパーなどがとても遠く電車で行く気にならない。こういった場所のそばに駅を作っていたら、利便性も図れるしまちも活性化すると思うので、ぜひ作っていただきたい。

○委員

新可児から御嵩までの間にはもう一つ駅があったが、残念ながら乗降数が少ないため廃駅にした。他の路線では現在では新たに病院ができたりして、地元のから要望をいただいて、新駅を計画して動いているところもある。また10年以上前には止むを得なく八百津線を廃線した。ただ、10年以上経過しており地域の状況も変わっていると思うので、そういったことも反映して10年20年後の鉄道輸送の在り方についてご意見をいただきたいと思う。

また、名古屋駅以东からのお客様に名鉄広見線を多く使用してもらえるように、散策切符の販売を始

めた。今後も名鉄広見線を多く利用してもらえるように努力していくので引き続きご支援を願いたい。

○委員

新可児駅から御嵩駅までの単線路線を路面電車化して地域のお年寄り、または交通弱者の方が気楽に乗降できるようにすると良い。

○委員

犬山駅から西可児駅での乗り継ぎが数年前に比べとても良くなった。また、散策切符については名古屋駅から可児駅や御嵩駅までの所要時間を明記できたら良い。

○会長

他に意見、質問がなければ議事を終了する。

8. その他

事務局から、次回の協議会は秋に開催を予定していると連絡した。

9. 閉会

事務局から、本日の協議結果について非公開にする部分はないことの確認があり閉会した。